

特集

入園・進級の今、  
あらためて考えたい

# 幼稚園って 何する ところ？

入園したばかりの子どもたちと

進級して、お兄さん・お姉さんになった子どもたち、  
それぞれの新学期が始まりました！

ママにとっても新しい生活のスタートですね。

子どもたちは幼稚園でどんなことを学ぶのでしょうか？

新入園児のママはもちろん、年中・年長さんママも、  
あらためて幼稚園の目的を考えていきましょう。

監修／西東桂子



●お話を聞いたのは  
**加藤 篤彦先生**  
かとう・あつひこ 武蔵野東第一・第二  
幼稚園園長（東京都）。全日本私立幼稚園  
幼児教育研究機構理事、東京都私立  
幼稚園連合会教育研究委員長。

いろいろな子との  
出会いが  
子どもを成長させる

幼稚園は、基本的に1日4時間、子どもが集団の中で生活をして育ち合う場所です。子どもたちが帰った後、先生たちは一人一人の一日を振り返り、「明日はこうしてみよう」と教育プランを立てます。子どもたちが伸びるために、園での4時間をどう過ごさせるかを考えていくのです。

最初に幼稚園は「育ち合う場所」であると言いましたが、何を育ち合うのかというと、「みんなの中で自分の能力を發揮すること」です。

人間は人とつながって生きること喜びを感じます。人付き合いが苦手という人も、いい関わりが持てたときにはうれしくなります。自分の力を發揮することによって、相手の力も引き出されます。それが健全なよりよい社会です。お互いがお互いのために存在しているのを感じる。この原点をつくるのが幼稚園です。

くと考えがちですが、大人になり社会に出たら、否応なくさまざまな人と仕事をしなければなりません。そのときにいいパフォーマンスをするには、人間の幅が必要になります。その原点は幼稚園時代に育まれるのです。

本園は自閉症児を受け入れて、一緒に生活を送っています。最近では障害児を受け入れる園が増えているようです。もし、自分の子どもと同じクラスになったら、その子もいろいろな子の一人です。やんちゃな子、おとなしい子、障害のある子、さまざまな子との出会いを「よかったね」と受け止められるお母さんであってほしいと思います。

**みんなの力を  
合わせることの  
素晴らしさを体験する**

入園したての子どもに対して幼稚園が大切にしているのは、自分の居場所があると感じられることです。これがないと人と関わるエネルギーは出てきません。

自分の居場所があると、次は「僕（私）はこうしたい」という主張・表現が出てきます。集団生活ですから、みんながそうなるにつれつかり合いが始まります。それも成長の過程なので、ステップを踏んで、子どもたちは、みんな

# 年少→年中→年長と 少しずつ成長していく

子どもたちはクラスの中で、育ち合っています。  
「おままごと」と「発表会」を例にして、  
どのように変化していくのか見てみましょう。

## おままごと

### 年少の場合

全員がお母さん役で満足。女の子も男の子もみんながエプロンを掛けて、一人一人安心して遊べます。



### 年中の場合

おうちにお母さんは1人だと気付くので、お母さん役の取り合いになりけんかになります。



### 年長の場合

けんかしてもつまらないことが分かるので、みんなが楽しく過ごすために、役を交代したりして、折り合いを付けます。



## 発表会

### 年少の場合

全ての行事が初めてのなので、何をやっても「楽しかった」と感じます。年少の場合はそれだけで十分です。



### 年中の場合

「見てくれる人」の存在に気付きます。見てほしいのは「自分」なので、「私(僕)を見て見て」と思うように。それぞれ自分が主役です。



### 年長の場合

見てほしいのは「自分だけ」ではなく、「みんなで作ったものを見て」「みんなの中の私(僕)を見て」と思うようになります。



### 子どもの発達を捉える5つの領域

#### 健康

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う。

#### 人間関係

他の人々と親しみ、支えあって生活するために、自立心を育て、人とかかわる力を養う。

#### 環境

周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。

#### 言葉

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

#### 表現

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

文部科学省「幼稚園教育要領」から抜粋

なの中で自分の力を発揮し、友達を認め、さらによいもの、よい関係をつくり出していきます。子どもたちにとって、砂場遊びもお店屋さんごっこも、遊びは全て育ちにつながります。先生たちは子どもたちの様子を見ながら、一人一人の成長を促してまいります。左に挙げた5つの領域は、成長を見るための「窓」として全ての園で使っているものです。卒園までに大きく成長していきますよ。